

# 横浜市における10代後半の青年の生活と意識(2)

## — 適 応 感 と の 関 連 —

高木秀明\*・小沢一仁\*\*・平出彦仁\*

### The Lives and Feelings of the Latter Half of Teen-agers in Yokohama City (2) —Relations to a Sense of Adaptiveness—

Hideaki TAKAGI, Kazuhito OZAWA & Hikohito HIRAIDE

#### Abstract

The purpose of this study is to investigate the lives and feelings among high school students, those left high school and juvenile delinquents, and to clarify the relationships among their lives, feelings and sense of adaptiveness.

The following results were obtained:

- (1) High school students and those left high school, having strong sense of adaptiveness, had healthy lives and feelings.
- (2) Juvenile delinquents, having weak sense of adaptiveness, had unhealthy lives and feelings.
- (3) The other subjects had intermediate lives and feelings.

#### 目 的

青年期は、心理的独立、自我同一性の確立、人間関係の再構成など、人間の発達段階の中でいくつかの大きな課題にぶつかる時期であり、それらの課題の達成に失敗すると、青年は自分の将来や生き方がわからなくなり、不適応に陥ったりする。青年期は11, 2歳頃～27, 8歳頃と長期にわたるため、前期、中期、後期に3分され、各期はそれぞれの課題と特徴を持っている。前期は、同性の友人関係を支えとして親からの心理的独立を図る時期であり、中期は、内面の主観的世界を大切に育て、同性の友人との心理的交流を大切にすると共に、異性の友人を求める時期でもあり、後期は、自我同一性を確立

---

\*横浜国立大学

\*\*帝京学園短期大学

し、親との新たな関係を築く時期である。本研究は、横浜市に住む10代後半、すなわち青年中期の青年のうち、高校在学学生、高校中退者、警察に補導された者について、その生活と意識を調べることを目的とする研究の第2報告である。第1報告(小沢・高木・平出, 1992)では彼らの人間関係について報告したが、本報告では彼らの生活・意識と適応感との関連について報告する。なお、本研究は、横浜市地域研究費補助金の助成を受けて行われた。

## 方 法

### 1. 調査対象, 調査期間, 実施方法

調査対象は、横浜市内の高校に在学している高校群(15~19歳)、横浜市内の警察署に補導された補導群(15~19歳)、横浜市内の高校を中退した中退群(16~19歳)の3群である。

調査期間は、1989年5月~9月である。

高校群については、高校に協力を依頼し、教室で集団法で実施した。補導群については、警察本部に協力を依頼し、補導された青年に対して個別に実施した。中退群については、高校中退者に対して郵送法で個別に調査への協力を依頼した。なお、中退群の回答の回収率は約25%であった。したがって、本研究の中退群の結果は、必ずしも中退群全体を代表する結果とはいえないであろう。

### 2. 分析対象

上記の各群について、加藤ら(1981)の用いた方法により、生活感情を調べる4項目(毎日の生活が楽しいと思うか、毎日自信を持って生活しているか、いつもものごとをいっしょうけんめいやろうとしているか、いつもまわりの人たちのために役立ちたいと思っているか)のすべてに肯定的に答えた者を主観的適応群、それ以外の者を主観的非適応群とした。回答の得られた、各群の人数と割合は表1の通りである。補導群では主観的適応群が少ないことがわかる。それに対して、中退群では、主観的適応群が高校群と同じ割合で存在している。本調査に回答してくれた中退群の青年は、それなりの目的を持って、毎日の生活を送っている者が多いように思われる。

表1 各群の人数と割合

	高校群	補導群	中退群
主観的適応群	699 (42.6)	28 (18.4)	20 (43.5)
主観的非適応群	940 (57.4)	124 (81.6)	26 (56.5)
計	1639(100.0)	152(100.0)	46(100.0)

$$\chi^2=33.99, df=2, p<0.001$$

### 3. 調査内容

今回報告する内容は、自由に使える時間のすごし方、アルバイト、友人関係、中学時

代の学校生活、親子関係、行動の主体性や達成経験の有無、現在の悩みごと、生き方、充実感などである。友人関係、学校生活、親子関係の調査項目は、加藤ら(1981)の項目を参考にして作成し、行動の主体性や達成経験の有無を調べる項目は、高木(1985)のものを使い、生き方に関する項目は、総務庁青少年対策本部(1986)の項目を用いた。また、充実感については、大野(1984)の充実感尺度を用いた。それ以外の項目は、本研究を行うために作成した。

結 果

1. 自由に使える時間のすごし方

表2に、自由に使える時間をどのようにすごしているのか尋ねた結果を示した。まず、

表2 自由に使える時間のすごし方

		高校群		補導群		中退群		適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)		
		適応群	非適応群	適応群	非適応群	適応群	非適応群	高校群	補導群	中退群
		(694人)	(929人)	(28人)	(124人)	(20人)	(26人)			
1. とくになにもせず、ぶらぶらしたり、ねころがったりして過ごす。	人数 (%)	304 (43.8)	500 (53.8)	12 (42.9)	79 (63.7)	7 (35.0)	16 (61.5)	***	*	**
2. テレビを見て過ごす。	人数 (%)	558 (80.4)	728 (78.4)	14 (50.0)	82 (66.1)	10 (50.0)	23 (88.5)			**
3. マンガや雑誌を見たり、読んだりして過ごす。	人数 (%)	488 (70.3)	629 (67.7)	11 (39.3)	69 (55.6)	9 (45.0)	21 (80.8)			*
4. 友だちと会って、話をしたりして過ごす。	人数 (%)	312 (45.0)	407 (43.8)	24 (85.7)	102 (82.3)	13 (65.0)	20 (76.9)			
5. 友だちに電話をかけて、おしゃべりして過ごす。	人数 (%)	220 (31.7)	274 (29.5)	17 (60.7)	58 (46.8)	4 (20.0)	13 (50.0)			*
6. 音楽を聴いたり、演奏したりして過ごす。	人数 (%)	449 (64.7)	596 (64.2)	13 (46.4)	40 (32.3)	12 (60.0)	14 (53.8)			
7. テレビゲームをしたり、パソコンを使ったりして過ごす。	人数 (%)	172 (24.8)	253 (27.2)	3 (10.7)	24 (19.4)	5 (25.0)	11 (42.3)			
8. バイクや車などに乗って過ごす。	人数 (%)	112 (16.1)	155 (16.7)	9 (32.1)	34 (27.4)	6 (30.0)	13 (50.0)			
9. スポーツをして過ごす。	人数 (%)	114 (16.4)	117 (12.6)	1 (3.6)	4 (3.2)	2 (10.0)	3 (11.5)	*		
10. ショッピングをしたり、商店街をぶらついたりして過ごす。	人数 (%)	263 (37.9)	333 (35.8)	8 (28.6)	37 (29.8)	7 (35.0)	13 (50.0)			
11. 読書をして過ごす。	人数 (%)	202 (29.1)	240 (25.8)	2 (7.1)	7 (5.6)	3 (15.0)	6 (23.1)			
12. 家族とともに過ごす。	人数 (%)	224 (32.3)	211 (22.7)	2 (7.1)	8 (6.5)	4 (20.0)	5 (19.2)	***		

\*p<0.05, \*\*p<0.01, \*\*\*p<0.001

目につくのは、高校群、補導群、中退群に関係なく、非適応群の青年に、「とくになにもせず、ぶらぶらすごす」者が多いことである。これらの青年は、とくにこれといった目的のない生活の中に、青春の貴重なときを費やしてしまっているように思われる。

高校群と補導群を比較すると、高校群にはテレビやマンガ・雑誌を見るという青年が多いが、補導群には友だちと会ったり、友だちに電話をかけるという青年が多い。補導群の青年にとっては、生活の中で友だちの占める比重が非常に重くなっているようであるが、これは精神面においても当てはまることであろう。このことは、もっとも大切な時間として、補導群の青年が「友だちといる時間」を挙げている（表3参照）ことからうかがえる。彼らが友だちとの関係の中で互いに支え合ったり、競争したりしながら、どの方向に歩いて行くかは、彼らの人生にとって大きな問題である。また、補導群の中で適応群と非適応群を比べると、もっとも大切な時間として「恋人といる時間」を挙げた者は、非適応群は適応群の約二分の一、アルバイトをしている者は約三分の一である（表4参照）。このことから、補導群の非適応の青年には生活の中の張り合いが少ないことがうかがえる。

表3 もっとも大切な時間

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. 一人での時間	182	24.8	294	33.1	2	7.1	13	10.7	7	38.9	14	53.8
2. 友だちといる時間	271	41.5	368	41.5	13	46.4	73	60.3	5	27.8	7	26.9
3. 恋人といる時間	96	14.7	111	12.5	12	42.9	25	20.7	6	33.3	4	15.4
4. 家族といる時間	124	19.0	114	12.9	1	3.6	10	8.3	0	0.0	1	3.8
計	653	100.0	887	100.0	28	100.0	121	100.0	18	100.0	26	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***											

\*\*\*p&lt;0.001

表4 アルバイトの有無

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. している	281	37.8	352	37.8	12	42.9	17	13.8	11	55.0	9	36.0
2. していない	430	62.2	578	62.2	16	57.1	106	86.2	9	45.0	16	64.0
計	691	100.0	930	100.0	28	100.0	123	100.0	20	100.0	25	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)					***							

\*\*\*p&lt;0.001

中退群においては、その適応群と非適応群の間にいくつかの違いが認められる。すなわち、非適応群の青年は適応群の青年よりも種々多様な行動をとっている。テレビやマンガ・雑誌を見たり、友だちと会ったり、ぶらぶらしたり、音楽を聴いたり、バイクに乗ったり、街をぶらついたり、などと非常に雑多な行動をとっている。その一方で、「一人でいる時間」をもっとも大切な時間としている者が多い。それに比べて、適応群の青年の行動の種類は数少なく、もっとも大切な時間として「恋人といる時間」を挙げている者の割合は、非適応群の約2倍である。これは、非適応群の中退青年の焦りや空虚感を示唆するものであろうか。意欲を持って自ら打ち込めるものを、なんとか探し出してほしいものである。

## 2. 友人関係

どの群も、中学時代は同性の親しい友人が複数いた者がほとんどである(表5参照)。そして、ほとんどの者が現在も同性の親しい友人を複数持っている(表7参照)。しかし、その友人関係への満足度には適応群と非適応群の間に差がみられる。高校群、補導群の適応青年には現在の同性の友人関係に不満を感じている者はほとんどいないが、非適応青年はどの群においても十数%の者が不満を抱えている(表9参照)。青年期における友人関係は、そこから多くのものを学び、且つまた同じ立場の者として共感し、慰めあい支えあう大切な宝ともなるものである。友人関係に恵まれない場合には、青年の心に傷が残るであろう。なお、中退群の適応青年には、現在の同性の友人関係にとっても不満を感じている者が約一割いるが、この意味は非適応青年の場合と同じではないであろう。彼らはむしろ積極的に他人や社会に向かい、そこに発見した問題をおろそかにできないのではないかと推察される。

次に、親しい異性の友だちについてみると、中学時代も現在も同性の友だちほど数は多くない(表6、表8参照)。また、その満足度は同性の友人関係の場合よりも不満が強く、非適応青年の方が適応青年よりも強い不満を持っているのは、同性の友人関係の場合と同じである(表10参照)。

表5 中学時代の親しい同性の友だちの有無

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. 1人いた	13	1.9	28	2.8	0	0.0	4	3.3	0	0.0	0	0.0
2. 2~3人いた	100	14.3	199	21.3	6	21.4	44	35.8	2	10.0	7	26.9
3. 4人以上いた	576	82.6	672	72.0	21	75.0	70	56.9	18	90.0	18	69.2
4. いなかった	8	1.1	36	3.9	1	3.6	5	4.1	0	0.0	1	3.8
計	697	100.0	933	100.0	28	100.0	123	100.0	20	100.0	26	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***											

\*\*\*p<0.001

表6 中学時代の親しい異性の友だちの有無

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. 1人いた	43	6.2	58	6.4	1	3.6	21	17.1	1	5.3	1	3.8
2. 2~3人いた	184	26.7	227	24.9	10	35.7	36	29.3	6	31.6	8	30.8
3. 4人以上いた	262	38.0	268	29.4	13	46.4	38	30.9	10	52.6	9	34.6
4. いなかった	200	29.0	360	39.4	4	14.3	28	22.8	2	10.5	8	30.8
計	689	100.0	913	100.0	28	100.0	123	100.0	19	100.0	26	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***											

\*\*\*p&lt;0.001

表7 現在の親しい同性の友だちの有無

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. 1人いる	7	1.0	29	3.1	0	0.0	7	5.7	1	5.0	1	3.8
2. 2~3人いる	113	16.2	178	19.0	9	32.1	42	34.1	8	40.0	9	34.6
3. 4人以上いる	564	81.0	685	73.2	18	64.3	66	53.7	10	50.0	14	53.8
4. いない	12	1.7	44	4.7	1	3.6	8	6.5	1	5.0	2	7.7
計	696	100.0	936	100.0	28	100.0	123	100.0	20	100.0	26	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***											

\*\*\*p&lt;0.001

表8 現在の親しい異性の友だちの有無

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. 1人いる	50	7.3	70	7.6	6	21.4	32	26.0	3	15.0	0	0.0
2. 2~3人いる	133	19.4	173	18.8	7	25.0	33	26.8	4	20.0	5	19.2
3. 4人以上いる	197	28.7	196	21.3	13	46.4	34	27.6	5	25.0	8	30.8
4. いない	307	44.7	480	52.2	2	7.1	24	19.5	8	40.0	13	50.0
計	687	100.0	919	100.0	28	100.0	123	100.0	20	100.0	26	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	**											

\*\*p&lt;0.01

表9 現在の同性の友人関係への満足度

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1.とても満足している	291	41.9	233	25.1	17	60.7	34	28.1	7	36.8	8	30.8
2.まあ満足している	362	52.1	527	56.7	10	35.7	70	57.9	9	47.4	13	50.0
3.少し不満である	32	4.6	131	14.1	1	3.6	15	12.4	1	5.3	4	15.4
4.とても不満である	10	1.4	39	4.2	0	0.0	2	1.7	2	10.5	1	3.8
計	695	100.0	930	100.0	28	100.0	121	100.0	19	100.0	26	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***				*							

\* $p < 0.05$ , \*\*\* $p < 0.001$

表10 現在の異性の友人関係への満足度

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1.とても満足している	137	22.2	123	15.5	11	40.7	29	26.9	5	27.8	3	15.0
2.まあ満足している	253	41.0	278	35.0	14	51.9	56	51.9	10	55.6	7	35.0
3.少し不満である	118	18.8	208	26.2	2	7.4	14	13.0	1	5.6	4	20.0
4.とても不満である	111	18.0	185	23.3	0	0.0	9	8.3	2	11.1	6	30.0
計	617	100.0	794	100.0	27	100.0	108	100.0	18	100.0	20	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***											

\*\*\* $p < 0.001$

親しい友だちとのつきあい方をみると、「気楽にしゃべったり、騒いだりする」つきあいが圧倒的に多く、昔の青年のように「生き方について語り合う」ことや「社会問題などで議論する」ことは少なくなっている(表11参照)。それらに比べると、「悩みごとを相談する」ことはときどき行われているようである。また、補導群においては「街に出て遊ぶ」ことが他の群よりも多いことがわかる。

### 3. 中学時代の学校生活

中学時代の学校生活を、学校生活への満足度(表12)、先生とのふれあいへの満足度(表13)、勉強の成績への満足度(表14)についてみると、大体、学校生活への満足度が一番高く、次いで、先生とのふれあいへの満足度であり、勉強の成績への満足度は一番低い。また、どの満足度をとっても高校の適応群の満足度がもっとも高く、次いで、高校の非適応群と補導の適応群という傾向である。他の3群には先生とのふれあいや勉強の成績に対する不満が強くみられる。また、高校の非適応群の生徒には、中学時代の先生とのふれあいをとっても不満に思っている者が約2割いることは忘れてはならない。

表11 親しい友だちとのつきあい方

		高校群				補導群				中退群			
		適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. 気楽にしやべったり、騒いだりする	よくある	630	92.5	804	90.8	26	96.3	107	92.2	15	78.9	20	83.3
	たまにある	47	6.9	77	8.7	1	3.7	9	7.8	4	21.1	4	16.7
	ない	4	0.6	4	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計	681	100.0	885	100.0	27	100.0	116	100.0	19	100.0	24	100.0
$\chi^2$ 検定													
2. 悩みごとを相談する	よくある	246	36.8	251	28.8	12	44.4	34	29.6	6	31.6	9	39.1
	たまにある	300	44.9	427	48.9	12	44.4	58	50.4	5	26.3	11	47.8
	ない	122	18.3	195	22.3	3	11.1	23	20.0	8	42.1	3	13.0
	計	668	100.0	873	100.0	27	100.0	115	100.0	19	100.0	23	100.0
$\chi^2$ 検定		**											
3. 生き方について語り合う	よくある	98	14.8	120	13.8	5	19.2	9	7.8	4	21.1	7	30.4
	たまにある	281	42.4	355	40.9	10	38.5	35	30.2	7	36.8	11	47.8
	ない	284	42.8	393	45.3	11	42.3	72	62.1	8	42.1	5	21.7
	計	663	100.0	868	100.0	26	100.0	116	100.0	19	100.0	23	100.0
$\chi^2$ 検定													
4. 社会問題などで議論する	よくある	65	9.8	51	5.9	1	3.7	0	0.0	3	15.8	3	13.0
	たまにある	234	35.5	284	32.9	3	11.1	8	7.0	7	36.8	6	26.1
	ない	361	54.7	528	61.2	23	85.2	106	93.0	9	47.4	14	60.9
	計	660	100.0	863	100.0	27	100.0	114	100.0	19	100.0	23	100.0
$\chi^2$ 検定		**											
5. ショッピングや映画鑑賞などを共にする	よくある	262	39.2	291	33.5	9	34.6	25	21.7	6	31.6	6	25.0
	たまにある	324	48.5	450	51.8	13	50.0	49	42.6	7	36.8	13	54.2
	ない	82	12.3	127	14.6	4	15.4	41	35.7	6	31.6	5	20.8
	計	668	100.0	868	100.0	26	100.0	115	100.0	19	100.0	24	100.0
$\chi^2$ 検定													
6. スポーツを共にする	よくある	222	33.5	188	21.8	2	7.7	5	4.3	2	10.5	2	8.3
	たまにある	252	38.0	318	36.8	11	42.3	21	18.3	8	42.1	7	29.2
	ない	189	28.5	357	41.4	13	50.0	89	77.4	9	47.4	15	62.5
	計	663	100.0	863	100.0	26	100.0	115	100.0	19	100.0	24	100.0
$\chi^2$ 検定		*											
7. 街に出て遊ぶ	よくある	304	45.4	351	40.6	20	76.9	77	67.0	10	52.6	10	41.7
	たまにある	294	43.9	408	47.2	6	23.1	33	28.7	6	31.6	9	37.5
	ない	72	10.7	106	12.3	0	0.0	5	4.3	3	15.8	5	20.8
	計	670	100.0	865	100.0	26	100.0	115	100.0	19	100.0	24	100.0
$\chi^2$ 検定													
8. 喫茶店やスナックに行く	よくある	130	19.6	162	18.8	8	32.0	45	39.1	6	31.6	6	25.0
	たまにある	238	36.0	297	34.4	15	60.0	47	40.9	6	31.6	9	37.5
	ない	294	44.4	404	46.8	2	8.0	23	20.0	7	36.8	9	37.5
	計	662	100.0	863	100.0	25	100.0	115	100.0	19	100.0	24	100.0
$\chi^2$ 検定													
9. 車やオートバイに乗る	よくある	119	17.9	170	19.7	8	30.8	44	38.9	7	36.8	11	45.8
	たまにある	91	13.7	123	14.2	9	34.6	46	40.7	7	36.8	5	20.8
	ない	453	68.3	571	66.1	9	34.6	23	20.4	5	26.3	8	33.3
	計	663	100.0	864	100.0	26	100.0	113	100.0	19	100.0	24	100.0
$\chi^2$ 検定													
10. ゲームセンターで遊ぶ	よくある	69	10.4	85	9.8	3	12.0	33	28.7	1	5.3	1	4.3
	たまにある	173	26.1	227	26.3	9	36.0	46	40.0	6	31.6	9	39.1
	ない	421	63.5	551	63.8	13	52.0	36	31.3	12	63.2	13	56.5
	計	663	100.0	863	100.0	25	100.0	115	100.0	19	100.0	23	100.0
$\chi^2$ 検定													

\* $p < 0.05$ , \*\* $p < 0.01$

表12 中学時代の学校生活への満足度

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. とても満足だった	258	37.2	238	25.5	7	25.0	14	11.3	3	15.0	5	19.2
2. まあ満足だった	315	45.4	422	45.1	15	53.6	54	43.5	8	40.0	8	30.8
3. 少し不満だった	82	11.8	172	18.4	5	17.9	37	29.8	6	30.0	7	26.9
4. とても不満だった	39	5.6	103	11.0	1	3.6	19	15.3	3	15.0	6	23.1
計	694	100.0	935	100.0	28	100.0	124	100.0	20	100.0	26	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***											

\*\*\*p<0.001

表13 中学時代の先生とのふれあいへの満足度

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. とても満足だった	174	25.1	145	15.5	5	17.9	9	7.3	1	5.0	2	7.7
2. まあ満足だった	338	48.7	416	44.6	13	46.4	28	22.6	10	50.0	13	50.0
3. 少し不満だった	111	16.0	187	20.0	8	28.6	53	42.7	4	20.0	2	7.7
4. とても不満だった	71	10.2	185	19.8	2	7.1	34	27.4	5	25.0	9	34.6
計	694	100.0	933	100.0	28	100.0	124	100.0	20	100.0	26	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***				**							

\*\*p<0.01, \*\*\*p<0.001

表14 中学時代の勉強の成績への満足度

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. とても満足だった	56	8.1	61	6.5	3	10.7	1	0.8	2	10.0	2	7.7
2. まあ満足だった	280	40.3	342	36.7	9	32.1	32	25.8	4	20.0	6	23.1
3. 少し不満だった	218	31.4	252	27.0	9	32.1	45	36.3	7	35.0	8	30.8
4. とても不満だった	140	20.2	278	29.8	7	25.0	46	37.1	7	35.0	10	38.5
計	694	100.0	933	100.0	28	100.0	124	100.0	20	100.0	26	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***				*							

\*p<0.05, \*\*\*p<0.001

#### 4. 親子関係

高校群，補導群，中退群のいずれにおいても，適応青年は非適応青年よりも家庭の雰囲気は楽しいと評価している(表15参照)。最も家庭の雰囲気を楽しくないと捉えているのは，補導群の非適応青年である(表16～表19参照)。彼らには，中学時代および現在の親子関係についてうまくいっていないと捉えている者が多い。母親との関係では半数近くの者が，父親との関係では約6割の者がうまくいっていないと答えている。子供や青年の発達には親や家庭の影響が強く働くことはいままでのことであるが，彼らのように親子関係がうまくいかない場合にはたいへん大きな損失を被ることになってしまう。

#### 5. 性格的特徴

行動の主体性と達成経験の有無について調べた結果が，表20～表22である。これらの表をみると，高校群の適応青年には他の青年よりも高い行動の主体性や豊富な達成経験が認められるが，中退群の適応青年にはそれ以上に高い主体性や達成経験が認められる。この傾向は中退群の非適応青年にも認められ，本調査に協力してくれた中退群の青年の

表15 家庭の雰囲気

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. いつも楽しい	365	52.5	279	30.1	10	35.7	17	13.7	10	50.0	4	15.4
2. ときどき楽しい	252	36.3	390	42.1	9	32.1	37	29.8	5	25.0	11	42.3
3. あまり楽しくない	60	8.6	191	20.6	7	25.0	48	38.7	5	25.0	10	38.5
4. まったく楽しくない	18	2.6	66	7.1	2	7.1	22	17.7	0	0.0	1	3.8
計	695	100.0	926	100.0	28	100.0	124	100.0	20	100.0	26	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***				*							

\* $p < 0.05$ , \*\*\* $p < 0.001$

表16 中学時代の父との関係

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. とてもよくいっていた	225	33.8	174	19.5	5	20.0	3	2.8	7	36.8	2	8.3
2. よくいっていた	341	51.2	450	50.4	12	48.0	37	34.3	6	31.6	12	50.0
3. あまりよくいかなかった	73	11.0	177	19.8	7	28.0	42	38.9	3	15.8	8	33.3
4. まったくよくいかなかった	27	4.1	92	10.3	1	4.0	26	24.1	3	15.8	2	8.3
計	666	100.0	893	100.0	25	100.0	108	100.0	19	100.0	24	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***				**							

\*\* $p < 0.01$ , \*\*\* $p < 0.001$

表17 中学時代の母との関係

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. とてもよくいっている	275	40.2	219	23.8	4	14.8	11	9.5	6	33.3	3	12.5
2. まあよくいっている	347	50.7	523	56.7	19	70.4	51	44.0	5	27.8	15	62.5
3. あまりよくいっていない	50	7.3	127	13.8	3	11.1	34	29.3	5	27.8	4	16.7
4. まったくよくいっていない	12	1.8	53	5.7	1	3.7	20	17.2	2	11.1	2	8.3
計	684	100.0	922	100.0	27	100.0	116	100.0	18	100.0	24	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***				*							

\* $p < 0.05$ , \*\*\* $p < 0.001$

表18 現在の父との関係

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. とてもよくいっている	257	39.7	189	21.5	6	25.0	4	3.8	8	42.1	5	22.7
2. まあよくいっている	315	48.6	474	53.9	10	41.7	37	35.2	6	31.6	9	40.9
3. あまりよくいっていない	50	7.7	137	15.6	6	25.0	41	39.0	4	21.1	5	22.7
4. まったくよくいっていない	26	4.0	79	9.0	2	8.3	23	21.9	1	5.3	3	13.6
計	648	100.0	879	100.0	24	100.0	105	100.0	19	100.0	22	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***				**							

\*\* $p < 0.01$ , \*\*\* $p < 0.001$

表19 現在の母との関係

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. とてもよくいっている	317	46.8	242	26.5	8	29.6	11	9.6	8	44.4	7	29.2
2. まあよくいっている	323	47.6	537	58.8	13	48.1	51	44.3	8	44.4	10	41.7
3. あまりよくいっていない	30	4.4	96	10.5	4	14.8	34	29.6	1	5.6	4	16.7
4. まったくよくいっていない	8	1.2	39	4.3	2	7.4	19	16.5	1	5.6	3	12.5
計	678	100.0	914	100.0	27	100.0	115	100.0	18	100.0	24	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***				*							

\* $p < 0.05$ , \*\*\* $p < 0.001$

表20 行動の主体性の有無

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. いつも自分の判断で行動する	98	14.3	132	14.3	3	10.7	16	13.0	8	40.0	6	23.1
2. だいたい自分の判断で行動する	429	62.5	469	50.9	20	71.4	61	49.6	9	45.0	15	57.7
3. だいたいみんなの意見についていく	149	21.7	295	32.0	4	14.3	41	33.3	2	10.0	5	19.2
4. いつもみんなの意見についていく	10	1.5	25	2.7	1	3.6	5	4.1	1	5.0	0	0.0
計	686	100.0	921	100.0	28	100.0	123	100.0	20	100.0	26	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***											

\*\*\*p&lt;0.001

表21 達成経験の有無1(自分でやろうと決めたむずかしいことをやりとげたことがあるか)

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. たくさんある	193	27.9	178	19.1	4	14.3	12	9.7	11	55.0	9	34.6
2. いくつかある	333	48.1	410	43.9	14	50.0	28	22.6	5	25.0	9	34.6
3. あまりない	138	19.9	276	29.6	9	32.1	50	40.3	3	15.0	6	23.1
4. まったくない	28	4.0	69	7.4	1	3.6	34	27.4	1	5.0	2	7.7
計	692	100.0	933	100.0	28	100.0	124	100.0	20	100.0	26	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***				**							

\*\*p&lt;0.01, \*\*\*p&lt;0.001

表22 達成経験の有無2(仲間と一緒に大ききな目的をやりとげたことがあるか)

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. たくさんある	195	28.1	147	15.8	2	7.1	4	3.2	8	40.0	3	11.5
2. いくつかある	341	49.1	426	45.7	15	53.6	26	21.0	6	30.0	10	38.5
3. あまりない	133	19.2	276	29.6	9	32.1	48	38.7	3	15.0	11	42.3
4. まったくない	25	3.6	84	9.0	2	7.1	46	37.1	3	15.0	2	7.7
計	694	100.0	933	100.0	28	100.0	124	100.0	20	100.0	26	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	***				***							

\*\*\*p&lt;0.001

しっかりとした考え方や性格をうかがうことができる。一方、補導群の非適応青年には主体性の弱さや達成経験の少なさがめだつ。彼らの問題がここにも現れている。また、高校群の非適応青年にも主体性の弱さが認められる。

6. 現在の悩みごと

現在の悩みごとについて調べた結果を表23に示した。どの群の青年もお金の悩みが多くなっている。彼らはお金の必要な生活を送っていることを示している。そのことと関係すると思われるが、就職についての悩みも各群にみられ、しかも、お金の悩みが多い群は就職の悩みも多くなっている。物の豊かな今の日本の社会では、その豊かな物を手に入れるために、青年もたくさんのお金を必要とするようになってしまったようである。以上の他に、高校群の青年には進学、勉強の悩みが非常に多く、彼らの置かれている状況がよく反映されている。また、高校群と中退群の非適応青年には自分の性格について悩む者も多く、適当な相談相手が必要であろう。さらに、異性についての悩みもみられる。

表23 現在の悩みごと

		高校群		補導群		中退群		適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)		
		適応群 (602人)	非適応群 (866人)	適応群 (26人)	非適応群 (106人)	適応群 (19人)	非適応群 (23人)	高校群	補導群	中退群
1. 進学、勉強	人数 (%)	424 (70.4)	579 (66.9)	0 (0.0)	12 (11.3)	5 (26.3)	9 (39.1)			
2. 健康	人数 (%)	178 (29.6)	239 (27.6)	6 (23.1)	14 (13.2)	9 (47.4)	9 (39.1)			
3. 就職	人数 (%)	257 (42.7)	361 (41.7)	8 (30.8)	52 (49.1)	9 (47.4)	15 (65.2)			
4. お金	人数 (%)	352 (58.5)	523 (60.4)	13 (50.0)	74 (69.8)	12 (63.2)	17 (73.9)			
5. 自分の性格	人数 (%)	228 (37.9)	441 (50.9)	6 (23.1)	20 (18.9)	5 (26.3)	10 (43.5)	***		
6. 自分の容姿	人数 (%)	181 (30.1)	309 (35.7)	4 (15.4)	22 (20.8)	4 (21.1)	7 (30.4)	*		
7. 友だち関係	人数 (%)	206 (34.2)	355 (41.0)	5 (19.2)	36 (34.0)	6 (31.6)	7 (30.4)	**		
8. 異性について	人数 (%)	297 (49.3)	415 (47.9)	10 (38.5)	29 (27.4)	6 (31.6)	13 (56.5)			
9. 親子関係	人数 (%)	95 (15.8)	196 (22.6)	3 (11.5)	27 (25.5)	6 (31.6)	3 (13.0)	**		
10. とくに悩んでいることはない	人数 (%)	86 (12.5)	61 (6.6)	2 (7.1)	18 (14.5)	1 (5.0)	3 (11.5)	***		

\*p<0.05, \*\*p<0.01, \*\*\*p<0.001

### 7. これから将来の生き方

これから将来の希望する生き方について調べた結果を表24に示した。どの群も「お金や名誉を考えずに、自分の趣味にあった暮らし方をする」と「その日その日をのんきに、くよくよしないで暮らす」という個人生活重視型の生き方を選択しているのは、現代の青年の特徴としてしばしば報告されているところである。しかし、今回の調査では、補導群の適応青年は「いっしょうけんめい働き、けんやくして金持ちになる」という生き方を最も多く選択していた。これは立身出世型の生き方であるが、非行などに走らず、社会から受け入れられる形でこの希望が叶えられることを望みたい。

表24 これから将来の希望する生き方

	高校群				補導群				中退群			
	適応群		非適応群		適応群		非適応群		適応群		非適応群	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. その日その日をのんきに、くよくよしないで暮らす。	147	22.7	267	29.9	8	28.6	58	46.8	2	11.1	6	24.0
2. まじめに勉強して名をあげる。	20	3.1	30	3.4	1	3.6	1	0.8	0	0.0	0	0.0
3. 自分だけのことを考えずに、国家社会のためにすべてをささげて暮らす。	22	3.4	28	2.9	0	0.0	0	0.0	2	11.1	0	0.0
4. お金や名誉を考えずに、自分の趣味にあった暮らし方をする。	294	45.4	354	39.7	7	25.0	34	27.4	8	44.4	13	52.0
5. いっしょうけんめい働き、けんやくして金持ちになる。	99	15.3	148	16.6	11	39.3	29	23.4	3	16.7	5	20.0
6. 世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しく暮らす。	66	10.2	67	7.5	1	3.6	2	1.6	3	16.7	1	4.0
計	648	100.0	892	100.0	28	100.0	124	100.0	18	100.0	25	100.0
適応-非適応群間差 ( $\chi^2$ 検定)	*											

\* $p < 0.05$

### 8. 充実感

充実感尺度は表25に示したように4つの下位尺度からなる。充実感気分、自立・自信、連帯、信頼・時間的展望のどの下位尺度においても、適応群の方が非適応群よりも得点が高くなっている。特に、充実感気分では非適応群の得点が中間の15点よりも低く、非適応群が退屈・空虚感を持っていることが示されている。その他、補導群の非適応青年の甘え・自信のなさ、不信・時間的展望の拡散も目立っている。

表25 充実感尺度得点

下位尺度	人数	高校群		補導群		中退群		適応-非適応群間差 (t検定)		
		適応群	非適応群	適応群	非適応群	適応群	非適応群	高校群	補導群	中退群
		655-680	883-910	25-28	112-122	18-20	24-25			
1. 充実感気分- 退屈・空虚感	M SD	16.8 3.6	12.8 3.9	17.8 3.6	13.3 3.5	18.0 2.8	11.1 4.0	***	***	***
2. 自立・自信- 甘え・自信のなさ	M SD	15.6 3.0	14.8 3.3	15.8 2.7	13.6 2.6	16.4 3.2	16.2 3.5	***	***	
3. 連帯-孤立	M SD	18.5 3.4	15.7 3.8	18.7 2.3	16.4 3.6	19.1 3.4	15.8 5.1	***	***	*
4. 信頼・時間的展望- 不信・時間的展望の拡散	M SD	18.1 3.3	15.9 3.7	17.8 3.4	13.9 3.2	19.0 4.3	15.8 3.1	***	***	**

注) 各下位尺度の最高可能得点は25、最低可能得点は5、中間得点は15であり、得点が高くなるほど各下位尺度のハイフンの左側の傾向が強くなることを示す。  
\*p<0.05, \*\*p<0.01, \*\*\*p<0.001

考 察

適応群と非適応群の間には種々の違いがみられた。また、適応群、非適応群それぞれの中でも、高校群、補導群、中退群の間で違いがみられた。最も健康的であったのは高校-適応群である。また、中退-適応群もしっかりしており、行動の主体性や達成経験では高校適応群を上回る素晴らしさもみられた。中退-適応群の問題は、学校での先生とのふれあいや勉強の成績に不満を持っていることである。しかし、現実の生活はしっかりと送っているようであり、充実感も持っているのであまり心配する必要はないであろう。

補導-適応群は、友だちや恋人を大切にし、充実感を持っている。お金に対するこだわりがみられるが、その気持ちを良い方向に向けてほしいものである。

適応群に比べて非適応群にはいくつかの問題がみられた。高校-非適応群は主体性に欠けるところがあり、自分の性格の悩みや友だち・先生への不満を抱えながら生活を送っているようである。そのような問題や悩みに対しては、積極的に動いて何らかの対策を講じることが必要であるが、彼らの主体性の欠如がそれを妨げるのではないかと考えられる。自ら自覚して自己改善を図ることが必要であろう。

中退-非適応群は、友だち、学校、先生、成績などに対する不満が強く、孤立してしまう傾向がみられる。その寂しさやむなしさから逃げようとするいろいろな試みても、空回りしてなかなかうまく行かず、満足感や充実感が得られないようである。彼らには、他人に対して自分を開いてつきあうことと、同時にまた他人を受け入れることが必要ではないかと考えられる。

補導—非適応群は、主体性や達成経験に欠け、家庭や親子関係に問題があり、友だちや先生、成績に不満を持ち、そして空虚感、不信感、自信のなさに苦しむという傾向がみられ、最も問題の多い群である。困難なことかも知れないが、まず親子関係の改善を図り、最も身近な人に対する信頼感を形成していくことが必要ではないかと考えられる。

#### 引用文献

- 加藤隆勝・石川 透・田中祐次・落合良行・高木秀明・堀 啓造 1981 現代青少年の人間関係——親子関係・教師生徒関係・友人関係の特質と生活感情—— 伊藤忠記念財団調査研究報告書 6
- 大野 久 1984 現代青年の充実感に関する一研究——現代日本青年の心情モデルについての検討—— 教育心理学研究, 32, 100-109.
- 小沢一仁・高木秀明・平出彦仁 1992 横浜市における10代後半の青年の生活と意識(1)——高校生・高校中退者・非行青年の比較—— 横浜国立大学教育紀要, 32, 17-28.
- 総務庁青少年対策本部 1986 現代の青少年——第4回青少年の連帯感などに関する調査報告書—— 大蔵省印刷局
- 高木秀明 1985 非行少年と一般少年の比較——性格、親子関係に関して—— 横浜国立大学教育紀要, 25, 141-162.